

新年のご挨拶

四国経済連合会

会長 常盤百樹



皆さま、明けましておめでとうございます。
新年を迎えるにあたり、所感の一端を述べさせていただきます。

わが国経済は、国内外で実施された経済対策の効果が出てきたこともあり、持ち直しの動きも見られますが、厳しい雇用情勢やデフレの進行など先行きへの懸念は払拭されておられません。

四国経済も、生産活動などに持ち直しの動きが窺えますが、その足取りはまだ確かなものとはなっておりません。

近く国会で、経済対策などを踏まえた予算が審議されようとしています。そうした施策が効果を発揮し、消費マインドの回復などにつながることを願っているところであります。

こうしたなか、四国にとって明るい話題としましては、四国にゆかりのテレビドラマが相次いで放送され、観光面で動きが出ていることであります。

昨年秋、徳島が舞台の「ウェルかめ」が始まってからは、「うみがめ博物館」の入場者が4倍近くに増え、松山市の「坂の上の雲ミュージアム」でも、放送開始後、4倍に増えるなど、テレビドラマの効果は大変大きいものがあります。

また、年明け早々から「龍馬伝」が始まり、

地元のイベントとも相まって、高知にも多くの観光客が訪れることになると思います。さらに、香川県では「瀬戸内国際芸術祭」などの特色ある国際イベントも開催されます。

このように、四国の観光にとって今年は絶好のチャンスであります。折りしも、四国の広域観光の振興を目指して、4県と経済界による「四国ツーリズム創造機構」が昨年設立されました。四国を挙げて、観光客をもてなす受け入れ体制の整備に努め、より多くの人々に四国の良さを知ってもらい、是非リピーターになってもらうことが重要であると考えています。

ご承知のように、現在、わが国は、少子高齢化、グローバル競争の拡大、財政の逼迫といった大きな時代の流れの中にあります。こうした環境を考えますと、地域の持続的発展のためには、地域自らが新しい成長の道筋を切り拓いてゆかなければならない時代になっていると思います。

そのため、まずは、四国が地域特性や強みを生かして時代のニーズに応えてゆくことが重要であります。先ほど申しあげました観光振興もそうですが、四国には特定分野できらりと光る企業が多く、また、各大学や研究所からは優れた研究成果が生まれており、産官学の連携の中で大きく育ててゆくことが必要です。

また、一次産業についても、四国には全国に誇れる産品が多く、農商工連携による高付加価値化、成長するアジアへの市場拡大などを進める必要があります。昨年、四国4県が共同で上海に特産品のアンテナショップを開設しましたが、特に海外に向けては四国のブランド化も課題であります。

こうした地域特性を生かす取り組みと同時に、四国が新しい時代を切り拓くために欠かせないのが、人材の定着と育成であります。先般、四経連が東京で開催した、四国出身の経営者との意見交換会においても、「四国の産業振興には、優れた人材の確保が不可欠」との意見が多く出されました。

四国は、若者を中心に人口流出が続いていますが、この流出を食い止め人材を定着させるために若者を惹きつける魅力ある地域づくりを進めることは、私たちの大きな責務であります。また、道州制のような、地方の自立意識を高める国づくりも人材の定着につながると考えています。

さらに、少子化が進む中で、このままでは日本の将来は大変なこととなります。四国としても、子供を生み育てやすい環境の整備に向けて、行政や企業、地域社会が連携して取り組んでゆく必要があると思います。

以上申し上げました諸課題について、今後とも積極的に取り組みを進めて参りたいと考えておりますので、皆さま方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

テレビドラマに登場する四国の先人達が新しい時代を切り拓いて行ったように、今、私たちも、前向きに、かつ果敢に変化に挑戦し、これ乗り越えてゆかなければなりません。皆さま、一緒に元気に取り組んでゆきましょう。

新しい年が皆さまにとりまして、より良い年となりますことをお祈りいたしますとともに、本年も引き続き四経連の活動に対しましてご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

